

公開実用平成 3-15510

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-15510

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成3年(1991)2月15日

A 61 F 13/15

6737-4C A 61 F 13/18 3 2 0

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全 頁)

⑭ 考案の名称 吸収性物品

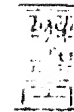
⑮ 実 願 平1-75460

⑯ 出 願 平1(1989)6月27日

⑰ 考 案 者 小 林 隆 俊 栃木県宇都宮市今泉3009-1

⑱ 出 願 人 花 王 株 式 会 社 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

⑲ 代 理 人 弁 理 士 羽 鳥 修



明 細 書

1. 考案の名称

吸 収 性 物 品

2. 実用新案登録請求の範囲

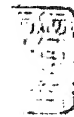
(1) 液透過性の表面材、液不透過性の防水材及びこれら両者の間に介在する吸収体を有し、実質的に縦長に形成された吸収性物品において、基端部を上記吸収体の表面より下方に位置させ且つ先端部を上記吸収体の表面より上方にそれぞれ位置させた傾斜フラップを長手方向の両側部にそれぞれ連設したことを特徴とする吸収性物品。

(2) 上記傾斜フラップが、弾性体によって形成され、その弾性力で上記傾斜状態を保有していることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第(1)項記載の吸収性物品。

(3) 上記傾斜フラップが、疎水性であることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第(1)項または(2)項記載の吸収性物品。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕



本考案は、吸収性物品に関するものであり、更に詳しくは、横漏れ、後漏れを完全に抑制することができる生理用ナプキンに関するものである。

〔従来の技術〕

従来から、一般に使用されている吸収性物品（生理用ナプキン）の基本構造は、液透過性の表面材と、液不透過性の防水材と、これら両者間に介在する吸収体を備えて構成され、実質的に縦長に形成されたものである。そして、このような生理用ナプキンにおいては、吸収性能が良いこと、いかなる状態においても漏れないこと、吸収された経血が戻らず、使用時の違和感がなく快適なことなどが強く要求されつつある。

そのため、従来の生理用ナプキンとしては、その吸収体としての液吸収機能及び液保持機能を高めた高吸収性ポリマーを用いたもの、あるいは該吸収体の形状を使用者の体形に近似させて使用感の向上を図ったものなどが提案されている。例えば、パルプ吸収体内に曲げ抵抗力のある弾性材料を配置させたもの（実開昭59-190235号



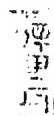
公報、実開昭 6 0 - 5 8 1 3 1 号公報等)、あるいは、非吸収体面側に弾性回復性のある発泡シートを設けるなどして、吸収速度に優れたパルプに弾性回復性を付与して保型し、使用時における防漏性を高めるようにしたものが提案されている

(実開昭 5 5 - 8 9 4 2 3 号公報、実開昭 5 9 - 1 9 0 2 3 3 号公報等)。

〔考案が解決しようとする課題〕

しかしながら、上記各公報に記載の生理用ナプキンは、確かに、身体の動きにより吸収体の幅方向の変形を防止することができ、その結果、吸収体幅を常に一定に維持することができ、横漏れを抑制することができる反面、身体の複雑な形態に追従し得ず、使用時に隙間を発生することが多く、液漏れを確実に防止することができず、また、保型用の弾性体の抵抗力が身体に加わり使用者に不快感を与えるなどの課題があった。

従って、本考案の目的は、使用感に優れ、しかも確実に液漏れを防止することができる吸収性物品を提供することにある。



〔課題を解決するための手段〕

本考案は、液透過性の表面材、液不透過性の防水材及びこれら両者の間に介在する吸収体を有し、実質的に縦長に形成された吸収性物品において、基端部を上記吸収体の表面より下方に位置させ且つ先端部を上記吸収体の表面より上方にそれぞれ位置させた傾斜フラップを長手方向の両側部にそれぞれ連設したことを特徴とする吸収性物品を提供することにより上記目的を達成したものである。

〔作用〕

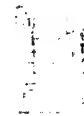
本考案によれば、使用時に傾斜フラップが使用者の体形に追随して隙間を発生させず、液体の漏れを防止することができる。

〔実施例〕

以下、第1図乃至第4図に示す実施例に基づいて本考案を説明する。尚、各図中、第1図は本考案の吸収性物品の第1の実施例である生理用ナプキンの横方向に切断した状態を示す斜視図、第2図は本考案の第2の実施例である生理用ナプキンの要部を示す横方向断面図、第3図は本考案の第

3 の実施例である生理用ナプキンの要部を示す横方向断面図、第 4 図は本考案の第 4 の実施例である生理用ナプキンの要部を示す横方向断面図である。

本考案の第 1 実施例の生理用ナプキン 1 は、第 1 図に示す如く、不織布あるいは開口部を有するポリエチレン等のフィルムからなる液透過性の表面材 2 と、ポリエチレンなど極薄の合成樹脂フィルムあるいは該フィルムを紙にラミネートした防水材 3 と、これら両者 2、3 の間に介在する解繊パルプあるいは高吸収性ポリマー等からなる吸収体 4 とを有し、実質的に縦長に形成されている。そして、上記吸収体 4 は、一方の表面から他方の表面の周縁部に亘って上記防水材 3 によって被覆され、該防水材 3 によって周縁部の被覆された他方の表面全体には上記表面材 2 が被覆されて、該表面材 2 を有する面で経血の吸収面を形成している。そして、上記表面材 2 は、上記吸収体 4 の表面から外側に所定幅をもって突出して突出部 2 A が形成され、後述する傾斜フラップ部と共に液漏



れを防止する防漏壁の役割を果たすようになされている。

また、上記防水材 3 の外表面には、弾性体からなる発泡性シート 5 がその周縁部を外方へ突出させて被覆されており、特に、その幅に突出した両側縁が、第 1 図に示す如く、折り返されてその両側縁で傾斜フラップ部 5 A を形成している。即ち、該発泡性シート 5 は、その突出した長手方向の両側縁が、その突出端から上記吸収体 4 に被覆された防水材 3 の側面下部 6 に到達するように折り返されて折り返し部 5 B を形成し、更に、その側面下部 6 から再び上記表面材 2 の上方向に折り返されて傾斜し、その先端が上記吸収体 4 の表面よりも上方に位置するように形成されている。そして、上記側面下部 6 から先端に亘って形成される発泡性シート 5 の側縁部で上述の如く所定幅の傾斜フラップ部 5 A を形成している。該発泡性シート 5 は、その折り返し部 5 B の重合部が完全に接合され、更に、上記吸収体 4 の側面における側面下部 6 において防水材 3 に接着されて上記傾斜フラッ

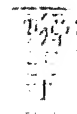
ブ 5 A の基端部が該側面下部 6 に固定されている。
また、該傾斜フラップ部 5 A が、上記表面材 2 の
突出部 2 A に接合されて、上気吸収体 4 の長手方
向の両側面に沿ってポケット部を形成している。

また、上気発泡性シート 5 は、上述の如く、弾
性及び疎水性を有する材料によって形成されてお
り、このような材料としては、例えば、ポリオレ
フィン類、ポリウレタン類等が挙げられ、身体に
接する柔らかさを確保する点、安全性等の点を考
慮するとポリオレフィン類が好ましく用いられる。

また、該発泡性シート 5 の発泡形態としては、
独立気泡、連続連通孔のいずれであっても良いが、
独立気泡がより好ましい。

また、該発泡性シート 5 の弾性は、弾性回復性
に優れたものが好ましく、具体的には、その降伏
応力が $15 \sim 100 \text{ g/cm}^2$ の範囲にあることが好
ましく、 $20 \sim 80 \text{ g/cm}^2$ がより好ましい。

また、該発泡性シート 5 の厚さは、 $0.3 \sim 5 \text{ mm}$
の範囲にあることが好ましく、 $0.5 \sim 3 \text{ mm}$ がより
好ましい。

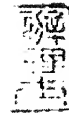


また、上気傾斜フラップ部 5 A の幅は、3 mm 以上が好ましく、3 ~ 20 mm の範囲にあることがより好ましく、5 ~ 10 mm がより好ましい。

また、生理用ナプキン 1 を水平にした場合における上気傾斜フラップ部 5 A の先端の高さは、上記吸収体 4 の表面より 1 mm 以上の高さにあることが好ましく、2 ~ 5 mm の範囲にあることがより好ましい。

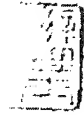
本実施例の生理用ナプキン 1 は、上述の如く構成されているため、使用時に、身体に接触する傾斜フラップ部 5 A が、身体の形態に追随し、しかも動作時の形態変化にも柔軟に追随するため違和感がなく、また、傾斜フラップ部 5 A と吸収体 4 間に形成されるポケット部内に吸収体 4 から拡散する経血を傾斜フラップ 5 A によって確実に封塞することができる。

本考案の第 2 の実施例の生理用ナプキン 1 は、第 2 図に示す如く、表面材 2、防水材 3、吸収体 4 及び発泡性シート 5 を有し、上記第 1 の実施例に準じて構成されているが、発泡性シート 5 によ



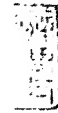
って形成する傾斜フラップ部 5 A 及び折り返し部 5 B の構造を異にしている。即ち、本実施例の生理用ナプキン 1 は、上記発泡性シート 5 の折り返し部 5 B の内端縁が上記吸収体 4 に到達しない構造になっており、該折り返し部 5 B がその重合した部分における内端縁に沿って線状に接着されて上記傾斜フラップ部 5 A の基端部を固定し、上記吸収体 4 の側面と上記傾斜フラップ部 5 A の基端部の間、及び上記折り返し部 5 B の重合内部それぞれに空間が設けられてバルキーに形成されている。従って、本実施例の生理用ナプキン 1 は、身体にソフトに接触してより使用感を一層向上させることができる。

本考案の第 3 の実施例の生理用ナプキン 1 は、第 3 図に示す如く、防水材 3 が吸収体 4 の裏面及び側面を被覆し、表面材 2 が吸収体 4 の表面、防水材 3 で被覆された側面及び吸収体 4 の裏面の周縁部を包み込むように被覆して構成されている点が相違しているが、発泡性シート 5 は、長手方向の側部等が第 1 の実施例に準じて形成されている。



従って、該発泡性シート 5 の傾斜フラップ部 5 A の基端部は、吸収体 4 の長手方向の側面を被覆する表面材 2 に接着されて吸収体 4 の側面下部 6 固定されている。従って、本実施例の生理用ナプキン 1 は、第 1 の実施例におけるものと同様の作用効果を期することができる。尚、上記傾斜フラップ部 5 A には第 1 の実施例のように上記表面材 2 が接合されていない。

本考案の第 4 の実施例の生理用ナプキン 1 は、第 4 図に示す如く、上記各実施例における発泡性シート 5 に代えて吸収体 4 の裏面にはポリエチレンなどの極薄の合成樹脂をラミネートした防水紙 7 が被覆されているが、その他は第 2 の実施例に準じて構成されている。即ち、上記防水紙 7 の長手方向の両側部には第 2 の実施例と同様に折曲形成された発泡性シート 5 が接続されて、該発泡性シート 5 は、第 2 の実施例と同様の傾斜フラップ部 5 A 及び折り返し部 5 B のみを形成している。本実施例の生理用ナプキン 1 も第 2 の実施例と同様の作用効果を期することができる。



尚、上記各実施例では、吸収性物品として生理用ナプキン 1 についてのみ説明し、また傾斜フラップ部 5 A が折り返し部 5 B と一体的に発泡性シート 5 によって形成したものについて説明したが本考案の吸収性物品は、傾斜フラップ部 5 A が吸収体の長手方向両側部から外側に傾斜して設けられ、その先端が吸収体 4 の表面より上方に位置したものであれば、全て本考案に包まれる。

〔考案の効果〕

本考案によれば、基端部を吸収体の表面より下方に位置させ且つ先端部を吸収体の表面より上方にそれぞれ位置させた傾斜フラップを長手方向の両側部にそれぞれ連設したことから、傾斜フラップが体液の防漏壁になって、使用感に優れ、しかも確実に液漏れを防止することができる吸収性物品を提供することができる。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案の吸収性物品の第 1 の実施例である生理用ナプキンの横方向に切断した状態を示す斜視図、第 2 図は本考案の第 2 の実施例である



生理用ナプキンの要部を示す横方向断面図、第 3 図は本考案の第 3 の実施例である生理用ナプキンの要部を示す横方向断面図、第 4 図は本考案の第 4 の実施例である生理用ナプキンの要部を示す横方向断面図である。

1 : 生理用ナプキン (吸収性物品)

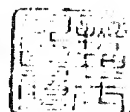
2 : 表面材 3 : 防水材

4 : 吸収体 5 A : 傾斜フラップ部

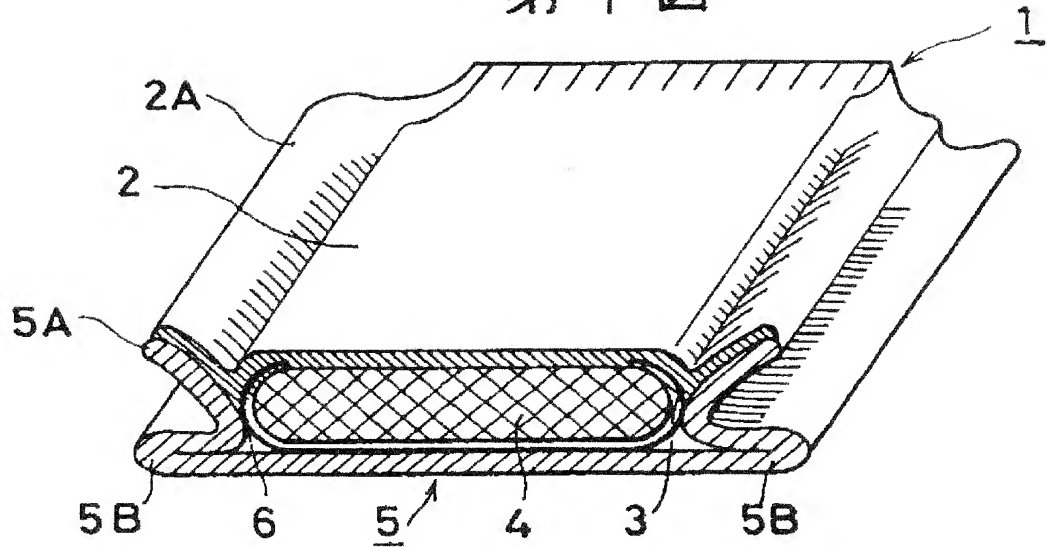
実用新案登録出願人 花 王 株式会社

代 理 人 弁 理 士 羽 鳥

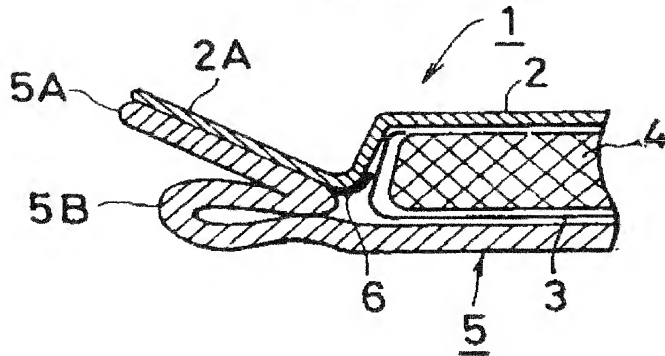
修



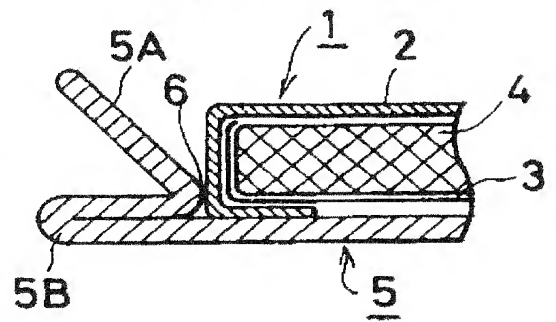
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図

